

坂町病院 だより

第10号

2017年1月発行



新潟県立坂町病院

〒959-3193 村上市下鍛冶屋589番地

TEL.0254-62-3111 FAX.0254-62-5431

<http://www.iwafune.ne.jp/~sakamachi-hosp/>

「地域住民に親しまれ信頼される病院」を目指し、当院から地域の方々に健康に関する様々な情報などを提供していくため、「坂町病院だより」を発行しています。



地域と坂町病院

坂町病院院長 鈴木 薫



坂町病院は地域に密着した病院で、地域が必要とする医療を提供する事が役割です。

日本では少子高齢化が問題となっています。国も高齢化に備えた医療体制の整備、子育て支援を重要な課題として様々な政策を出しています。特に医療と介護の連携、地域全体で高齢者を支える体制作りを目指しています。

坂町病院の診療圏では特に高齢化が進んでいます。以前より高齢化に備えた医療体制の整備を進めてきましたが、今後は更に充実させる必要があると考えています。

高齢者は遠方の病院まで行くのは大変なので、近くの病院で治療できる事が大事です。その為には、坂町病院でできる事の範囲を広げ、遠い病院まで行かなくて済む様にしなければなりません。

高齢者はちょっとした事で具合が悪くなりやすく、若い人に比べて重症化したり、入院が必要になる事が多いです。その為に、具合が悪い時は何時でも受診でき、必要な場合は何時でも直ぐに入院できる事が必要です。

高齢者は少し寝込んだだけで、足腰が弱り歩けなくなります。歩けなくなると患者さんや家族の負担が大変になる為、なるべく入院する前の生活ができる様にする必要があります。その為にはリハビリが大事となります。

高齢者がなるべく自宅で過ごせて、また家族の負担にならない様にする必要があります。その為には介護関係者との協力が重要となります。また、今後増えると思われる訪問診療に対する体制を強化する必要があります。

坂町病院は介護関係者と病院の合同勉強会を行っています。病院と介護関係者で問題点を話し合い、高齢者が出来るだけ快適な老後を送れる



体制を作る事を目指しています。

訪問診療は緊急時の往診、在宅での看取りなどを行っています。荒川、関川の訪問診療を行っている開業医、訪問看護ステーションとチームを作り、皆で在宅患者さんへより良い事が出来る様に、一緒に対応していきます。

子供を安心して育てられる環境は、地域振興にも重要です。地域の子育て支援に協力します。7月から村上市、関川村の病児、病後児保育に医療を通じて協力します。県立病院では初めての為、色々問題がありましたが、他の地域のモデルとなる様にします。

坂町病院は1)患者さんに良い事をする。2)患者さん、家族に可能な限り便宜を図る。3)医療を通じて地域に貢献する事を目標としています。患者さんや家族になったつもりでの対応を目指していますが、至らない点も多々ある事をお詫びします。

患者さんや家族のご要望にはできる事から少しづつですが対応しています。待ち時間短縮として小児科のスマホでの受付を始めています。利用したお母さん方からは好評との話も聞いています。皆さまのご意見、ご要望を是非お教え下さる様にお願い致します。

お薬飲みすぎていませんか？ ポリファーマシーについて

薬剤部 宇佐見 有香

🩸 ポリファーマシーとは？

みなさんは「ポリファーマシー」という言葉をご存知でしょうか？一般の方にはまだ馴染みのない言葉かもしれませんが、近年日本の医療において話題となっています。「ポリ」とは「多くの」、「ファーマシー」とは「薬」のことで、「多薬剤服用」という意味です。明確な定義はありませんが、必要とされている量以上の薬が処方されている状態を指します。

ポリファーマシーは、高齢者を中心に起こりやすくなります。なぜなら、高齢の方ほど複数の病気を抱え複数の病院や診療科に通院しており多剤併用が増えるからです。糖尿病や高血圧、脂質異常症、便秘、不眠…これらの薬を1種類ずつだけでもすでに5種類もの薬を飲んでいることとなります。現在、高齢者の半分以上がポリファーマシーであると言われています。



🩸 ポリファーマシーの問題点

なぜポリファーマシーは問題となっているのでしょうか。薬には副作用がありますからたくさんの薬を服用すればするほど副作用は増えますし、薬同士の相互作用による有害事象が起こりやすくなります。副作用や相互作用に対応するために新しい薬が追加され、更に薬が増えるといった悪循環に陥ってしまう可能性があります。

また、多くの薬剤を服用すると服薬コンプライアンスの低下を引き起こします。「服薬コンプライアンス」とは「用法・用量通りに正しく服用すること」を指します。薬の数や服用する回数が多いほど薬を服用する手間が増えてしまうため、服薬コンプライアンスが低下しやすくなります。きちんと薬を服用できていなければ病状が進行しますし、医師は薬の効果が不十分と考え、追加で薬を処方してしまう可能性があります。このことにより更なるポリファーマシーに、また残薬が増えるなどといった他の問題にもつながってまいります。

🩸 ポリファーマシーを防ぐためには…？

すぐできるポリファーマシー対策はなんでしょうか。まずは、お薬手帳を活用するのが良い方法でしょう。お薬手帳は薬の情報を一元的に管理することができます。お薬手帳は病院・薬局ごとに使い分けせず一冊にまとめることをおすすめします。そしていつも持ち歩き、医師や薬剤師に必ず見せましょう。こうすることで薬が重複して処方されるのを避けることができます。

さらに、複数の薬局を利用せず自分の薬の調剤・管理を全て任せる「かかりつけ薬局」を持ちましょう。どれくらい内服できているか、残薬はないか、かかりつけ薬局の薬剤師と一緒に確認していくことが大切です。

当院では各病棟に担当薬剤師がいて、入院中の方の相談に応じています。薬のことでお困りのことがあれば、お気軽に外来窓口でもご相談ください。



登山愛好会

菅沼 忠志

坂町病院登山愛好会は新病院移転の平成五年に発足して二十四年間登山やハイキングを計画し活動を継続してきました。病院から東側にそびえる高坪山(570.5m)はブナ林やシラネアオイなどの植物で多くの登山者に親しまれています。また、登山愛好会のホームとして季節を問わず愛され続けてきました。これから登山を始めようと思う方にはお勧めの山と思います。登山愛好会は山を愛し、自然を大切にをモットーに年間5回程の登山を計画し、平成28年まで98山の登山を実施してきました。内容的には春先の県内低山登山をスタートに百名山クラス(現在23山登頂)に挑戦するため、2回目3回目とト

レーニングを積み、時には飯豊連峰縦走や青森・秋田方面の東北の山々の登山やバスチャーターで富士登山など実施してきました。24年間無事故で登山が出来た事は誇りに思っています。まだまだ山ブームは衰えません。年配になっても体力に合わせた登山の楽しみ方があります。昨今、山ガール・山岳トレイルなどの現象がありますが、安全で楽しい登山を心がけ活動をしていきたいと思ひます。



「県立坂町病院活性化促進大会」開催

昨年10月8日(土)、胎内市産業文化会館で平成28年度「県立坂町病院活性化推進大会」が開催されました。

これは平成17年12月に当時の胎内市、荒川町、神林村、関川村を構成員として設立された県立坂町病院活性化協議会が主催し、各地域持ち回りで開催しています。

当日は小雨の降る中、各市村長・行政・医療機関関係者・大勢の地域住民の方々からお集まりいただきました。



来賓として、地元選出の衆議院議員・県議会議員の先生方にも出席していただきました。

大会冒頭、協議会会長である高橋村上市長が「医師が確保され、医療スタッフが安定して確保され、ここで暮らす皆さんが豊で安心な生活を送るために、協議会として坂町病院の医療体制の整備を進めていく」と挨拶され、来賓の方からもそれぞれ政策の中で



「地域住民の命を守る坂町病院は重要と位置づけており、応援していく」というお言葉も頂きました。

次に、地域住民代表として、村上市荒川地区在住の神田めぐみ様より「子育て世代の母親として、坂町病院の小児科の役割に触れ、大学の先生ではなく常勤の先生に診てもらいたい。かかりつけ医がいる安心感が地域の子育てのしやすさに繋がる。」との意見発表があり、つづいて、「常勤の内科・小児科医師の増員、整形外科医師の確保、産科の復活及びリハビリテーション機能、在宅医療の充実が求められている。」などの県立坂町病院の医療体制の改善を早期に実現していくとの決議がなされました。

最後に、当医院鈴木院長の挨拶の後、『咳に対する考え方や治療について』をテーマに坂町病院内科医による記念講演を行い大会は終了しました。

坂町病院では 地域医療介護連携勉強会を開催しています



当院では、地域医療・介護従事者、行政の方々にお集まり頂き、「坂町病院地域医療介護勉強会」を年3回程度開催しています。関係医療機関、福祉施設との相互理解を深め、医療・介護に関する知識を高めると共に、地域との連携を推進する目的で、一昨年から取り組んでおります。これまで、「坂町病院の訪問診療と介護事業所との連携について」、「嚥下障害に関わる諸問題」、「地域で担う高齢医療、垣根を越えた連携にむけて」などをテーマに勉強会を開催しました。

昨年10月には、インフルエンザ、感染性腸炎などの流行時期を控え、当院の内科黒川医長による「福祉施設、療養型病院での感染対策の考え方」と、感染管理認定田中看護師による「やってみよう手指衛生」と題した、正しい手洗い方法の実技を交えた勉強会を行いました。

参加人数は約30名、参加された介護施設職員様からは、「具体的ですぐに実践できる内容で大変勉強になりました」等の声が寄せられました。また、地域の訪問看護ステーションからは、手指衛生に使用する薬剤について助言を求められるなど、有意義な勉強会となりました。

当坂町病院は、高齢者の急性期医療からリハビリ・介護との調整まで行っています。高齢者の方が増えていく将来を見据え、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けていけるように、行政をはじめ関係医療機関、福祉施設と顔の見える関係をつくり等、協力・連携を推進していきたいと考えています。今後も、各分野最新の知識・技術の勉強会を継続し、地域の方々と共に、地域医療に貢献していきたいと考えております。



外来の接遇への取り組み 接遇委員会

私たち外来看護師は、病院の理念である「地域住民に親しまれ信頼される病院」を目指し、常に笑顔と思いやりをもって安全、安心の看護を提供できるように努めています。一般的に患者様にとって、外来診療での一番の苦痛は、待ち時間であると言われています。当院では、今年度、小児科再来の患者様にスムーズに診療が行われるように、携帯電話での予約サービス（医事受付にお問い合わせ下さい）を始めました。また、内科の近副院長外来の待ち時間については、予約時間から一時間以上遅延している場合、当院ホームページから待ち時間を確認できるサービスも開始いたしました。



少しでも待ち時間の短縮になるよう取り組んでいます。

その他に、外来での待ち時間を少しで

も有効に活用していただけるような取り組みも始めました。『坂町病院図書館』と称した本棚を設置し、小説や絵本のほか病気に関する豆知識を載せたファイルを用意しました。内科待合前では、糖尿病に関する治療や食事療法などについてのDVDを放映し、糖尿病についての情報提供を行っています。昨年11月には内科と小児科外来前にテレビを設置いたしました。また、スマートフォンの普及に伴い、12月から外来待合室において無線Wi-Fiを導入しております。また、小児科待合室は、少し高さのあるプレイスペースでしたが、小さいお子さんの安全面から、高さの無いプレイスペースに改装いたしました。保護者の方からは「安心して子供を見ていただける」と大変好評を得ています。このように、外来も色々な取り組みを行っています。お気づきのことがありましたら、いつでも声をおかけください。



感染管理認定看護師の活動

感染管理認定看護師 田中 美保

「認定看護師制度」は、日本看護協会が特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を実践する認定看護師を配置することにより、看護ケアの質の向上を図る目的として発足しました。このたび、1年の研修を終えこの制度の感染管理認定審査に合格しました。今後は、この感染管理分野において患者様やご家族様、地域住民の皆様、病院スタッフに水準の高い看護技術の実践、教育活動、相談活動を提供する3つの役割を担う予定です。

感染管理認定看護師は、感染に於いて専門的技術と知識を用いて、患者様やご家族様、病院スタッフ、他の病院また地域の施設と連携し、感染に対するリスクを最小限に抑え、感染管理の質向上を図ることを目的に活動を行っていきます。

今年度より、院内活動として感染管理担当医師、感染制御チームと協力した活動を行っています。具体的活動内容は、院内各部署で正しい感染対策が行われているのか、週1回環境調査

を実施しています。また、病院スタッフ全員が「標準予防策」を正しく実施できるよう、実際の手洗い方法やマスクの装着方法等について講習会を開催しています。

寒い時期は、インフルエンザウイルスやノロウイルスによる感染症も流行します。

感染管理は、私一人の力では行えません。病院スタッフ、地域住民の皆様、地域施設の方々と協力して行うことで、有効で効果的な対策を行うことができます。

感染対策は、正しい知識を持つことが重要です。

「感染症」や「感染対策」についてご疑問等ございましたら、迅速に対応させていただきますのでお声かけください。安全で安心できる感染管理が提供できるよう今後、奮闘努力してまいります。

